

2) ニホンザルの種内遺伝的変異

野沢 謙・庄武孝義
大倉よし子

第49回日本遺伝学会 (1976)

3) マントヒヒ、アヌビスヒヒそれらの雑種の血液蛋白質の変異

庄武 孝義・大倉よし子
川本 芳・野沢 謙

第49回日本遺伝学会

4) エチオピア中央部のグリベットモンキー (*Cercopithecus aethiops aethiops*) の血液蛋白質の変異

庄武 孝義・大倉よし子
川本 芳・野沢 謙

第30回日本人類学会・日本民族学会
連合大会 (1976)

5) 沖縄山羊の遺伝的変異性

庄武 孝義・新城 明久
大倉よし子・野沢 謙
第66回日本畜産学会 (1977)

生活史研究部門

杉山幸丸・田中二郎
小山直樹・大沢秀行

研究概要

1) ニホンザル個体群生態学的研究

杉山幸丸・小山直樹・大沢秀行

1. 霊仙山生息ニホンザル地域個体群の動態。餌付けを放棄した2つの野生群の全個体標識識別を基礎に、餌付け期間中と対比させながら人口学的研究を進めてきた。とくに本年度は自然環境下における出産率、初産年令、若年死亡等に新知見を得た。

2. 嵐山生息ニホンザルの個体群動態。全個体に関する出産・死亡・離脱などの資料の収集と分析をおこない、個体群動態解明にとりくんできた。

3. 高崎山生息ニホンザルの個体群動態。ポピュレーション・センサスとサンプル標識追跡によって、個体群構造の人口学的解析を進めてきた。とくに本年度は餌付け条件下における生命表の作成が試みられた(変異部門西邨願達と共同)。

2) エチオピア高原におけるゲラダヒヒの社会生態学的研究

大沢 秀 行

昭和48年度の調査に引き続いて本年度も現地調査を継続し、集団構成と行動域、生息地の食物生産量、採食量との関係を追跡した。

3) 類人猿、狩猟採集民・遊牧民の生態学的研究

田 中 二 郎

ホミニゼーションの過程における生活様式と社会の復元を目的として、狩猟採集民、遊牧民の生態学的研究を行なっている(年報第5巻15頁参照)。昭和49・50年度にまたがる現地調査の成果を比較生態学的な観点からまとめてきた。

白山山麓における山村住民の調査を行ない、アフリカでの調査との比較的な視点から考察した。

論 文

1) Sugiyama, Y. (1976): Life history of male Japanese monkeys. "Advances in the Study of Behavior, Vol. 7", pp.255-284, Academic Press, New York.

2) Sugiyama, Y. (1976): Characteristics of the ecology of the Himalayan langurs. *Journal of Human Evolution*, 5, 249-277.

3) 田中二郎 (1976): ラクダ遊牧民を追って。自然, 31, 36-46。

4) 田中二郎 (1976): 自然と住まいの人類学—狩猟採集民ブッシュマンの生活。アニマ, 42, 44-50.

5) Tanaka, J. (1976): Subsistence ecology of Central Kalahari San. "Kalahari Hunter-Gatherers—Studies of the !Kung San and their neighbors" (R. B. Lee and I. DeVore, eds.), pp. 98-119, Harvard University Press, Cambridge, Mass.

6) 田中二郎 (1977): ブッシュマンのサブシステム—その進化史的考察。生物科学, 29, 51-56。

7) 杉山幸丸・大沢秀行・西邨願達・増井憲一 (1977): ポピュレーション・センサスによる高崎山生息ニホンザルの個体群動態。高崎山ニホンザル調査報告 1971-1975年, 5-18, 大分市。

8) 大沢秀行・杉山幸丸・西邨願達 (1977): 識別個体の追跡による高崎山生息ニホンザルの個体群動態。高崎山ニホンザル調査報告 1971-1975年。19-29, 大分市。

学 会 発 表

1) ラクダ遊牧民レンディーレの生態と社会

田中二郎・佐藤 俊
日本民族学会第15回研究大会 (1976)

2) レンディーレ族の環境適応について

田中二郎・佐藤 俊
第13回日本アフリカ学会学術大会 (1976)

3) ニホンザルのグループダイナミクス

小山 直 樹

東海心理学会第25回大会特別講演 (1976)

4) ニホンザルを中心とする霊長類の Local Population Structure

大沢 秀 行

個体群生態学会昭和51年度シンポジウム (1976)

生 理 研 究 部 門

大沢 済・大島 清
目片文夫・林 基治
原 文江¹⁾

研 究 概 要

1) 体温調節反応の比較生理学的研究

大沢 済・目片文夫

各種サル類の寒冷、暑熱下における体温調節反応を比較し、棲息環境および系統との関係を考究する。

2) ニホンザルの温度順応に関する研究

大沢 済・目片文夫・原 文江

屋外放飼群について、種々の外温に対する体温調節反応、ノルアドレナリン反応性、脂質組成等の季節的变化を調べている。また、適温飼育個体を毎日一定時間寒冷または暑熱にさらすことにより、上記の諸特性がどのように変化するかという順応過程の研究にとりかかっている。

3) ニホンザルの野生群における寒冷適応の研究

大沢 済・原 文江

1977年2月寒冷多雪地帯に住む志賀C群の総合捕獲調査を行ない、極限的寒冷環境下における体温調節反応、および、寒冷血管反応を調べた。

4) ニホンザル繁殖期の季節性を決定する要因に関する研究

大島 清・林 基治

要因のうち、中枢機序がもっとも考えられ、そのうち、光—松果体—視床下部の経路が重要である。現在では松果体性のメラトニンのみでなく、視床下部性の indolamine と光、LH-RH との関係も考慮に入れねばならず、ニホンザルの内因性の indolamine の効果による変動、また投与による生殖リズムの変動の有無を検討する。

5) 分娩発来機序に関する研究

大島 清

分娩前後のサル血中 Prostaglandin, Oxytocin, Progesterone を2時間置きに採血し、これらのホルモンの分娩現象前後に於ける変動を測定し、分娩発来にどのような役割を果たしているかを研究する。

1) 教務職員

6) ニホンザル妊娠経過中の各種ホルモンの動態について

大島 清・林 基治

筆者らはすでに Progesterone が妊娠初期には他のマカク属サルと同じように MCG による一過性の高値を示すこと、また妊娠50~60日以降はヒトと全く異なった低値を示すことを確かめている。このヒトに似ない Progesterone の低値の要因を検討するために更に他のホルモン MCG, LH, FSH, estrogen, MPLなどを測定する。

7) 卵管、卵巣、子宮の電氣的活動に及ぼす各種ホルモンの影響

大島 清

従来、急性実験を主体として来たが、今年度より、慢性的に電極を装着して随時生理的環境下で記録して自然周期ならびにホルモンの影響などを調べる。

8) 低温および高温環境下に於ける子宮、卵管、電氣的活動と血中ホルモンの動態について

大島 清

麻酔等の体温降下により子宮活動が低下することは臨床的に知られている。環境温度の急変により、下腹痛、不快感、流産の惹起した報告もあり、環境温度が生殖機能に与える影響は大きいと推測される。人工気象室に於て環境温度を低温又は高温にしたときの子宮、卵管活動を電氣的に記録すると同時に、それと血中ホルモン動態との因果関係を解析する。

9) ニホンザル夏季不妊期に於ける人工受精に関する研究

大島 清・松林清明

ニホンザルは夏季に特有の無月経、無周期の不妊状態となるが、この時期に KMG-HCG therapy で排卵を誘発せしめ冷凍保存又は採取直後の精液によって人工受精を試みる。成功すればニホンザルの年2度の妊娠が可能となり自家繁殖態勢を強化できる。

10) ニホンザルの生殖リズムと卵巣、子宮、卵管の微細構造に関する研究

大島 清

繁殖期と夏季不妊期、繁殖期に於ける月経周期にともなう卵胞、子宮内膜、卵管内腔の微細構造の変化を走査型、透過型の両電子顕微鏡によって検討し、電氣的活動及び生化学的变化と比較する。

11) 各種サルの血管平滑筋細胞膜の電氣的性質に関する研究

目片 文 夫

各種サルの血管平滑筋の電氣的・機械的性質および、これ等に対する神経支配を比較生理学的にしらべ、四足歩行から二足歩行への移行に伴って生ずる血管系の変化